

平成30年度奈良県自然環境保全審議会 鳥獣部会  
会議録

- 1 日時：平成31年2月5日（火） 13:30～15:40
- 2 場所：奈良市登大路町36 やまと会議室 5階 中会議室
- 3 出席委員（部会長以下五十音順）  
鳥居部会長 中川委員 揉井委員 八代田委員 横山委員 吉岡委員
- 4 審議会の開会
  - ・会議の成立について  
委員8名中、6名の出席があり、奈良県自然環境保全審議会運営要綱第4条第4項の規定により会議は有効に成立する旨事務局から報告
  - ・議長選出  
奈良県自然環境保全審議会運営要綱第4条第3項の規定により鳥居部会長を選出
  - ・会議の公開  
奈良県自然環境保全審議会の会議の公開等の取扱いにより会議の公開を決定
- 5 議事の概要

<報告事項1>

奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画平成30年度モニタリング報告について

■説明

（事務局）概要を説明。

■意見等

（鳥居委員）

集落アンケートでは農業被害減少理由が柵の効果か耕作地の減少か評価できない。アンケート項目の追加が必要ではないか。

（事務局）

アンケートに営農状況の変化についての項目を追加したい。

（鳥居委員）

最終的に被害項目に柵の設置効果を含めたモニタリング報告を作成して欲しい。

猟期終盤に雄の捕獲効率が低下するようなら、雌雄別に捕獲効率を算出し評価して欲しい。

（横山委員）

推定生息数のもとになる平成24年度の糞塊密度調査の結果を図にして欲しい。

(事務局)

了解。推定生息数の算出した24年度は糞粒法で現在は糞塊法で調査している。

(横山委員)

根拠が比較できない場合、その旨を明記する。密度指標が上がっている場合は捕獲目標を見直す必要がある。ただし、根拠がないと判断できない。

(鳥居委員)

密度調査は毎年行うべきであり、目標頭数は毎年変更する必要がある。

(横山委員)

糞粒法と糞塊法では密度指標の推定方法を変更しないといけない。モニタリングは生息数を推定し目標頭数を判断するためのもの。数値を出すだけでは意味がない。

(鳥居委員)

モニタリングの結果で翌年度の捕獲目標を立てる。この段階で頭数が判らないと来年度以降の捕獲計画が立てられない。

(横山委員)

捕獲目標の設定が5年後では取り返しがつかない恐れがあるので、当初の予測で大丈夫かをモニタリングする。

(鳥居委員)

被害調査で被害が拡大していれば個体数調整に問題があると評価され、見直しが必要。森林被害の天然林が平成26年でなくなっている。どういうことか。

(事務局)

市町村からの報告がなくなった。

(鳥居委員)

市町村にもう少し働きかけ、データを収集して欲しい。

(横山委員)

わな捕獲数とは箱わなのことか。

(事務局)

くくりわなと箱わな、囲いわなが含まれる。

(横山委員)

餌の誘引の有無で捕獲効率が異なる。

(鳥居委員)

くくりわなと箱わなを分けること。

(八代田委員)

捕獲効率は狩猟以外にも有害捕獲のデータが必要。狩猟の捕獲頭数増は難しい。有害捕獲のデータを分析して欲しい。

(事務局)

データを見ないと分析可能かわからない。

(八代田委員)

捕獲数を増やす提案を許可捕獲でも対応して欲しい。

(揉井委員)

被害減への努力はされているが、増やさない努力、生息環境管理についてもう少し盛り込んで欲しい。

(鳥居委員)

天然林の下層植生への被害を記載する以上、対策を考えているのか。被害があると言うなら対策すべきである。剥皮被害調査の結果はどう活用しているのか。

(事務局)

剥皮被害調査は5年間隔で被害の増減を見ている。

(八代田委員)

下層植生の調査や人工林の剥皮調査を使って、どこで一番被害が多いか林業被害のマップ化を検討して欲しい。捕獲による被害減を解析いただき、捕獲計画に役立てて欲しい。協力できると思うので検討いただきたい。

(鳥居委員)

下層衰退度調査は落葉広葉樹林ではできると思うので、できればお願いしたい。

(横山委員)

「警戒心の高いシカに対する捕獲計画の向上をはかる必要がある」との記載があるが、警戒心の高いシカの捕獲はほぼできない。「警戒心を高めないような捕獲をする」に変更した方が良い。

## <報告事項2>

奈良県イノシシ第二種特定鳥獣管理計画平成30年度モニタリング報告について

### ■説明

(事務局) 概要を説明。

### ■意見等

(鳥居委員)

本計画の目標は。

(事務局)

農業林業集落アンケート調査で、被害が前年度に比べて「減った」、「軽微」、または「ない」の割合が8割を超える状態を5年連続で確認できることが目標。

(鳥居委員)

捕獲目標の6,100頭の根拠は。

(事務局)

計画策定時に過去3年間の捕獲数の平均より算出した。

(鳥居委員)

捕獲効率の算出方法は、親子同じか、別に計算か。親子別に計算して欲しい。

(横山委員)

親子別での捕獲効率の計算は難しいと思うが、幼獣の割合が高いと捕獲効果がない。成獣、幼獣別に捕獲数を集計し、成獣の割合を出して欲しい。

(事務局)

データを見て、どこまでできるか確認する。

(吉岡委員)

狩猟者登録した方のうち新規狩猟免許取得者数は、年齢構成を知りたい。

(中川委員)

狩猟免許取得者は多いが、全国的に免許取得後に登録しない人が多い。猟友会でも猟友会活動に参加してもらおうと考えている。

(事務局)

新規狩猟免許取得者の年齢は色々。

(中川委員)

有害捕獲の要件が地域で違い、各支部で取り組みが異なる。

(事務局)

被害があるなら、市町村との話し合いの機会を提案していきたい。

(鳥居委員)

20年度から29年度で捕獲効率は低下したが、捕獲数の増加した理由は。

(事務局)

平成20年度は調査様式が異なる。地域の差を比較して欲しい。

(八代田委員)

シカ同様に有害も捕獲効率を解析いただきたい。

(鳥居委員)

捕獲効率は箱わなとくくりわなを分けて欲しい。成獣、幼獣も分け、解析して欲しい。

(関係機関 森林技術センター)

箱わな、くくりわな別の集計は多分できる。

(吉岡委員)

捕獲目標頭数は6,100頭だが、捕獲数はH29年度で9,000頭、H28年度で7,500頭。イノシシの頭数に影響はあるか。

(事務局)

農作物被害金額はここ数年1億円前後で推移。来年の調査結果次第だが、生息数への影響は少ないと思われる。

<報告事項3>

## 奈良県ツキノワグマ保護管理計画平成30年度モニタリング報告について

### ■説明

(事務局) 概要を説明。

(関係機関 森林技術センター) ツキノワグマの生息数調査概要を説明

### ■意見等

(鳥居委員)

捕獲個体は採血しているのか。

(事務局)

業者が行っている。

(鳥居委員)

採血の目的は何か。県に所有権があるなら利用すべき。目撃報告は5kmメッシュではなく緯度経度に落とし直し、一覧表に記載して欲しい。

(横山委員)

カメラトラップ調査で生息域をどれくらいカバーできているのか。

(関係機関)

生息域に対するカバー面積は狭い。今後、調査地域を広げるよう検討したい。

(横山委員)

過去のヘアトラップ調査とリンクするように調査設計をして欲しい。

## <報告事項4>

### 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画平成30年度モニタリング報告について

#### ■説明

(奈良公園室) 概要を説明。

#### ■意見等

(横山委員)

全県では糞塊法を採用しているが、なぜここでは糞粒法を採用しているのか。

(奈良公園室)

奈良のシカ保護管理計画検討委員会の意見を踏まえて実施している。

(横山委員)

特に理由はないということか。他地域と比較するには糞塊法が良い。

(鳥居委員)

調査地域が狭いため、糞粒法を採用している。旧奈良市街との比較に平行して糞塊法も実施すべきと考える。

(八代田委員)

CPUEを全期間通して算出しているが、時期別に算出して欲しい。

(奈良公園室)

検討したい。

(吉岡委員)

胃内容の検査結果をまとめて欲しい。

(揉井委員)

管理目的は農業被害のみか。林業被害はないのか。

(奈良公園室)

林業被害も対応すべきと考えるが、農業被害対策から着手している。

### <その他>

(中川委員)

9,000頭捕獲しているが、県内に食肉処理施設が少なく大部分は埋設か焼却処理。猟友会員から要望もある。県で食肉処理施設を設置して欲しい。

(事務局)

食肉処理施設は国の交付金を活用し、市町村単位での設置を推進している。費用対効果の目安である1,000頭以上捕獲している市町村は県内になく単独では厳しい。近隣市町村合同で設置するよう機会があれば提案する。

(揉井委員)

ため池に張られたテグスに鳥がかかって死亡する。希少な鳥もかかっているが、県はテグスについてどう考えているのか。

(事務局)

テグスは養魚池の被害防除目的と考えられる。県に連絡があった場合は水産担当から市町村、養魚業者に注意喚起を行っている。これ自体の規制は難しい。

以上の議事を認め署名する。

平成31年3月11日

署名委員

中川 綴 印

平成31年3月11日

署名委員

吉岡 豊 印